

令和3年度 一般採用試験
国語試験問題
(人文・社会科学専攻)

(注 意)

1. 解答用紙の注意事項を確認のうえ、例にならって氏名及び受験番号を解答用紙に必ず記入及びマークすること。

例 【氏名】 防大 渚 【受験番号】 神奈川県W1234 の場合

※氏名及び受験番号の記入について

	氏	名
フリガナ	ボウダイ	ナギサ
漢 字	防大	渚

	志願地本名	専攻区分	番 号
受験番号	神奈川県	人	W1234

※受験番号等のマークについて (女子受験者は、番号のWはマークしない。)

志願地本名	札幌：(01)	福島：(10)	専攻区分	番 号				
	函館：(02)	茨城：(11)		人社 ●	0	0	0	0
	旭川：(03)	栃木：(12)			1	1	1	1
	帯広：(04)	群馬：(13)		性 別	2	●	2	2
	青森：(05)	埼玉：(14)			3	3	●	3
	岩手：(06)	千葉：(15)		男 (1) 女 ●	4	4	4	●
	宮城：(07)	東京：(16)			5	5	5	5
	秋田：(08)	神奈川県：●		6	6	6	6	
	山形：(09)	新潟：(18)		7	7	7	7	
				8	8	8	8	
		9	9	9	9			

2. 試験時間中は、すべて試験係官の指示に従うこと。
3. 解答方法は、択一式であり、設問ごとの指示に従い、解答用紙の解答欄にマークすること。
- 例えば、1と表示のある問題に対して(3)と解答する場合は、次の例のように1の解答欄の(3)にマークすること。

	解 答 欄					
例	1	(1)	(2)	●	(4)	(5)

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。
(鈴木一人氏の「深まる世界秩序の不確実性」(2019年11・12月)による。
なお、出題の都合上、原文の表記を一部改めてある。)

*(注) 防衛大綱——正式には「防衛計画の大綱」と呼ばれ、日本の戦略環境の変化に応じて、数年に一度

発表される中長期的な安全保障政策の指針。

海兵隊——米軍の軍種のうち、主として海外での武力行使を前提とした緊急展開部隊。

沿岸警備隊——「コストガード」と呼ばれ、米国の海上監視や阻止行動を担う部隊で、日本では海上保安庁に相当する組織。

斥候——敵軍の動静や地形をひそかに探るために派遣する兵士。

F35戦闘機——米軍が開発した第五世代ジェット戦闘機で、レーダーによる探知が困難な高度のステルス性を持つ。航空自衛隊も次期主力戦闘機として採用を決定している。

衛星攻撃兵器——地球軌道上の人工衛星を攻撃する兵器。

高超音速滑空ミサイル——従来の弾道ミサイルと違って低高度を滑空しながら推進し、最終段階で急速浮上した後、落下してくるミサイル。

弾道——ミサイルなどが発射点と着弾点の間をおおむね放物線を描きながら進むこと。

ブースター——ミサイルを上空に発射させるエンジン。

合成バイオロジ——合成生物学とも言い、生物学を工学と組み合わせて、遺伝子工学など新たな生態システムを設計しようとする学問分野。

量子コンピューティング——量子力学的な現象を用いて、従来のコンピューターが現実的な時間や規模で解けなかった問題をコンピューターで解こうとすること。

1 2 3 4 5 本文中の空欄 a b

c d e にあてはまる語句

として、本文の論旨に照らして、最も適当なものを、それぞれ選択肢(1)～(5)の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

1 a

- (1) データベース
- (2) ネットワーク
- (3) ブラットフォーム
- (4) ハードウェア
- (5) マルウェア

2 b

- (1) エスカレーション
- (2) イノベーション
- (3) ナビゲーション
- (4) グラデーション
- (5) コンデーション

3 c

- (1) 撃たれる前に先制攻撃をかけよう
- (2) 迎撃ミサイル網を全土に配置しよう
- (3) 国際機関を通じて軍縮努力をしよう
- (4) 人工衛星でミサイルを監視しよう
- (5) 撃たれないように外交努力をしよう

4 d

- (1) 可視化
- (2) 簡素化
- (3) 相対化
- (4) 多様化
- (5) 合理化

5 e

- (1) 絶対性
- (2) 戦略性
- (3) 機動性
- (4) 実効性
- (5) 持続性

6

コネクティブティとミサイルに関する筆者の主張として、本文の論旨に照らして、最も適当なものを、選択肢(1)～(5)の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 日本政府の財政赤字が深刻な状況に鑑み、自衛隊の予算に厳しい制約が課せられたため、防衛省は宇宙・サイバー・電磁波といった新領域における自衛隊の能力向上を図り、既存の陸海空自衛隊の経費を抑制しようとした。
- (2) 今日の米軍の最新鋭兵器は、コネクティブティに大きく頼っているため、敵対勢力はサイバー攻撃やASATによる攻撃を目論んでいるが、MDによって未然に効果的に防衛されている。
- (3) 近年中国はサイバー能力を強化し、宇宙開発も進めているが、技術的には米国に倣っているため、米国との互換性が確保されているため、米国は依然として技術的に優位に立っている。
- (4) 米国はソ連・中国に対して戦略的優位で圧倒するため、一九八〇年代からMDを構築し始め、そのミサイル迎撃能力が大幅に向上したので、冷戦での勝利を導くことができた。
- (5) 米国がMD開発を進めた結果、近年中国やロシアはMDでは予測が困難なコースを推進していくミサイルを開発して、米国への攻撃能力を向上させ、抑止効果を高めている。

7

問題文全体に関する筆者の主張として、本文の論旨に照らして、最も不適当なものを、選択肢(1)～(5)の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 今日の安全保障では、コネクティブティの向上により兵器のサイバー空間との接続が死活的な重要性を帯びてきたため、それとの交信を支えている人工衛星の防衛に大きな関心が寄せられている。
- (2) 中国の超音速滑空ミサイル東風17は、射程距離は長距離弾道ミサイルに比べると短いものの、日本には大きな軍事的脅威となるので、今後の防空システムの構築においては、東風17への迎撃をも勘案しなければならぬ。
- (3) 冷戦期は政府が軍事技術の開発を主導してきたが、今日では政府が有望な民間企業に補助金を配分したり、税制優遇などを通じて、これらの企業を積極的に育成しようとしている。
- (4) 今日民間企業による技術革新はグローバルな流通網を通じて外国に輸出され、中でも重要な技術を有する米国企業を中国企業が買収するケースが出ており、米国政府は外国直接投資に対する審査制度を強化している。
- (5) 今日民間における最先端技術の国外への流出を完全に管理することは、米国政府でも困難であるだけでなく、高度な知識や経験を備えた技術者が魅力的な条件に誘われて国外の企業に転出することも懸念されている。

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

(石黒圭氏の「段落論」による)

8

右の文章は大きく分けて三つの段落の集合体（Ⅰ～Ⅲ）から成り立っている。それぞれの集合体にどの段落が入るのかを示したものとして、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。なお、①から⑯の数字は、本文の各段落の冒頭に記した番号と対応する。

- | | | | | | | |
|-----|---|-----|----|-----|-----|-----|
| (1) | I | ①～⑦ | II | ⑧～⑭ | III | ⑮～⑯ |
| (2) | I | ①～② | II | ③～⑦ | III | ⑧～⑯ |
| (3) | I | ①～③ | II | ④～⑪ | III | ⑫～⑯ |
| (4) | I | ①～⑦ | II | ⑧～⑪ | III | ⑫～⑯ |
| (5) | I | ①～③ | II | ④～⑦ | III | ⑧～⑯ |

9

空欄 A ～ D に入る言葉の組み合わせとして、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- | | | | | |
|-----|------|------|------|------|
| (1) | A 言語 | B 注意 | C 意味 | D 処理 |
| (2) | A 知識 | B 自粛 | C 意味 | D 破棄 |
| (3) | A 言語 | B 制御 | C 略語 | D 処理 |
| (4) | A 架空 | B 自粛 | C 略語 | D 処分 |
| (5) | A 知識 | B 制御 | C 文脈 | D 処分 |

10

傍線部（1）に関する説明として、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 新しい機器を使うことで、これから必要な語彙を先取りして得られる。
- (2) ここでいう「世界」とは、自らが直接体験出来る「現実」のことを指す。
- (3) 類義語を意識しながら覚えていくには、現実には即した経験が必要である。
- (4) 語彙は、似た意味の言葉同士の差異を意識して効率よく身に付けるものである。
- (5) 和・漢・洋という言葉の分類を意識して覚えると、多義語の場合有効である。

11

傍線部（2）の理由として、本文の論旨に照らして、最も不適当なものを次の中から一つ選べ。

- (1) 文脈を読み取り、一語にある多様な意味を整理分類した上で、その一つを選択することも重要だから。
- (2) 言葉の運用力を高めるためには、幅広い自身の体験や読書を通して、適切な言葉の形を選択するよりも意味内容を熟知することの方が大切だから。
- (3) 類似の意味を持ちながら、その文脈によって複数に表現し分けることが可能な言葉の集まりは、個別の意味の理解だけで運用することは難しいから。
- (4) 国語力を支える語彙力とは、言葉の知識の集積に留まらず、深く考え正確に理解し精密に表現する力と対応するものだから。
- (5) 言葉の数を多く知っているだけでは、言葉によって分別・整理された内容や、近しい言葉同士の関係を認識することはできないから。

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

(多木浩二氏の『生きられた家』による)

* (注) オブジェ——物体、対象。

フランシス・イエイツ——イギリスの思想史学者。主にルネサンス期のヨーロッパ精神史を研究した。

アウグスチヌス——キリスト教の神学者・哲学者。

エレン・イーヴ・フランク——文学と建築の関係を考察した研究者。

コンバートメント——仕切られた区画、小部屋。

ブルジョアジー——富裕な資本家階級。

サロン——貴族や上流階級の社交のための場所。

12

文中の空欄

A

B

にそれぞれ入る語の組み

合わせとして、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) A 曖昧に創られたメタファー B 記憶したことの連鎖の保存
- (2) A 多重に織られたテキスト B 生存することの意味の発見
- (3) A 郷愁に包まれたオブジェ B 存在したことの尊厳の象徴
- (4) A 巧みに仕組まれたデザイン B 共存することの束縛の解放
- (5) A 神秘に閉ざされたイメージ B 進化することの歴史の蓄積

13

文中の空欄

C

に入る語として、本文の論旨に照ら

して、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 様式との矛盾と調和を方法的に意識化すること
- (2) 集団との関係と役割を社会的に制度化すること
- (3) 記憶との断絶と連続を絶えず対象化すること
- (4) 歴史との乖離と接続を意図的に相対化すること
- (5) 過去との連続と差異を同時に現実化すること

14

本文中の〈近代デザイン〉に関する説明として、本文の論旨に照らして、

最も不適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 近代デザインは、常に「ゼロからはじめる」ことを主張していたが、実際にはそれは人間存在の本質に反する非現実的なものに過ぎなかった。
- (2) 近代デザインは、装飾的に時間を象徴する旧来の様式から住居を解放して、人間にとっての「家」の意義自体を大きく転換させようとした。
- (3) 近代デザインは、家父長的に堆積してきた過去へと逆行する記憶の時間的象徴を排除した地点に、新たに現代的に構築されるものであった。
- (4) 近代デザインは、先祖から続く家族の歴史という封建的な慣習を住居空間から消去し、人類の記憶が持つ豊かな多元性を確保しようとした。
- (5) 近代デザインは、雑多な記憶の歴史を内包する人類学的時間から過去を切り離し、旧来の記憶の形態を払拭した建築様式の確立を目指した。

本文の内容に関する説明として、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 幼少期の筆者は、自宅の内部にある過去の家族の歴史や存在の様々な痕跡を感受していたが、同時にそこで記憶の隠喩として建築が用いられることの象徴的意味を直観的に理解し、それら過去のオブジェを持つ個々の記憶の意味を正確に認識していた。
- (2) アウグスチヌスは、人間の記憶は一種の巨大なコンパートメントで、そこには過去の記憶と同時に、新規に獲得した「知」の蓄積を保管する機能があると述べたが、筆者は、建築という空間で記憶の構造をたとえることは不適当であると主張している。
- (3) 長い歴史を内包する伝統的住居ではより濃厚に生み出される集団的記憶は、過去を切り離すモダニズム建築では排除されたにもかかわらず、多義的で生き生きとした記憶との共存空間を生み出す要素として、現在もなおその存在意義を失っていない。
- (4) 先祖の肖像画は、伝統的に「時間の鏡」として祖先や家族との永続的な繋がりや家父長的な身分制を象徴するものであったが、資本主義を信奉するブルジョワジーの台頭とともにその象徴的な意義が失われ、家という空間は個人主義的な場となった。
- (5) 写真というメディアが生んだモダニズム的感性の産物である家族のアルバムには、肖像画のような家父長制度的な記憶の痕跡はもはや全く残存していないのであり、そこでは「個人史」という前近代的な自己確認の様式そのものが効力を失っている。

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

(正岡子規の「墨汁一滴」による)

16

傍線部(1)～(4)の読みの組み合わせとして、最も正しいものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- | | | | | |
|-----|--------|---------|--------|---------|
| (1) | (1) こそ | (2) いか | (3) ひら | (4) たまざ |
| (2) | (1) こそ | (2) いか | (3) ひら | (4) いさざ |
| (3) | (1) こそ | (2) いか | (3) のぞ | (4) うかう |
| (4) | (1) こそ | (2) いかん | (3) のぞ | (4) いさざ |
| (5) | (1) こそ | (2) いかん | (3) ひら | (4) たまざ |

17

波線部の現代語訳として最も正しいものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 今はもはや筆を執つてものを書くことができないほどになったので、思い悩むことで腹にものがたまり、精神さえも疲れ果ててしまわない。
- (2) 今はもはや筆を執つてものを書くことができないほどになったので、思うことが腹にたまり、精神さえも疲れ果ててしまった。
- (3) 今はやくも筆を執つてものを書くことに値しないほどになったならば、思うことが腹にたまって、精神も疲れ果ててしまわない。
- (4) 今はやくも筆を執つてものを書くことに値しないほどになったならば、思い悩むことで先々のことが不安になって、精神さえも疲れ果ててしまうだろう。
- (5) 今はもはや筆を執つてものを書くことができないほどになったので、思い悩むことで先々のことが不安になって、精神さえも疲れ果ててしまった。

18

二重傍線部「まし」と同じ意味を含む和歌を次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし
- (2) 行き暮れて木の下かけを宿とせば花や今宵のあるじならまし
- (3) いづる日の影もおぼろの朝けかな霧にしをれて山路わけまし
- (4) 雪降れば木毎に花ぞ咲きにけるいづれを梅と分きて折らまし

19

この文章は、「墨汁一滴」という随筆を新聞「日本」に連載するに当たって、序文的な位置づけで書かれた文章である。本文の内容の説明として明らかに誤っているものを一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 年齢からくる病気のせいで、局部の痛みに加え、昨年からは左の横腹も痛むようになってしまった。
- (2) 「つれづれ」を慰めるため心に浮かぶ事を書き散らしたとあり、筆者は『徒然草』序の「心にうつりゆく」「そこはかとなく書きつく」を意識していたと考えられる。
- (3) 身体に痛みが襲ってくる間のわずかな時間で書いた小文なので、筆につけた一滴分の短文という意味を込めて、「墨汁一滴」と名付けたと考えられる。
- (4) 読者に読んでもらうというよりも、痛みの合間にも何か書いて、それが新聞に載るのを見るのは、何も書かないよりは慰めになると思った。

20
5
21

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合上、返り点と送り仮名を省略したところがある。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

(「小学」善行による)

*(注) 廉公——後漢末の人物。

劉表——後漢末の人物、荊州の太守。

候——様子を尻に行く。

秋耕——耕作を中止する。

壁上——田畑のうね。

耘——雑草をとる。

歌歎——いなか。

傍線部「未為無所遺也」の書き下し文として、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 未だ為さざるに遺す所無きなり
- (2) 未だ為さざるに所無く残すなり
- (3) 未だ遺す所無しと為さざるなり
- (4) 未だ遺す所無きが為なり
- (5) 未だ所無き為に残さざるなり

本文の内容に関する説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) なかなか招聘に応じない龐公に対して、農業よりも仕官して俸禄を得る生き方の重要性を説く劉表であったが、詭弁を弄する龐公にうんざりしてその場を去った。
- (2) 農耕に従事する龐公の暮らしは、仕官して俸禄を得ることに及ばないと劉表は考えていたが、そのような生き方はまったく龐公の意中にないことを知り、落胆した。
- (3) 龐公に仕官をすすめた劉表であったが、龐公は仕官して気苦労が絶えない生活をおくるよりも、子孫に美田を残す方を優先するとの姿勢を示した。
- (4) 苦しい農作業をする龐公に、劉表は自ら赴いて仕官をすすめ、子孫に何を残そうとしているのかを問うも、龐公は的外れなことを述べてはぐらかすばかりであった。
- (5) 龐公は仕官して俸禄を得るほうが収入も地位も安定することを承知したうえで、何も残すことはできなくとも妻と共に働くことのできる農業を選んだ。